

# 博士の社会の多様な場での活躍や 大学院と社会との接続の在り方について

# 最近の博士人材に関するとりまとめ

- 文部科学省では「博士人材活躍プラン」により**博士号取得者数を世界トップレベルに引き上げる**大目標を掲げるとともに、経済産業省と共同して**博士人材の民間企業での活躍を促進**。



(令和6年3月)

博士人材の増加を図るとともに、博士人材がアカデミアのみならず多様なフィールドで活躍する社会の実現を目指す

大目標

2040年における人口100万人当たりの  
博士号取得者数を世界トップレベルに引き  
上げる（2020年度比約3倍）

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/jinzai/1278386\\_00002.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/jinzai/1278386_00002.htm)



(令和7年3月)

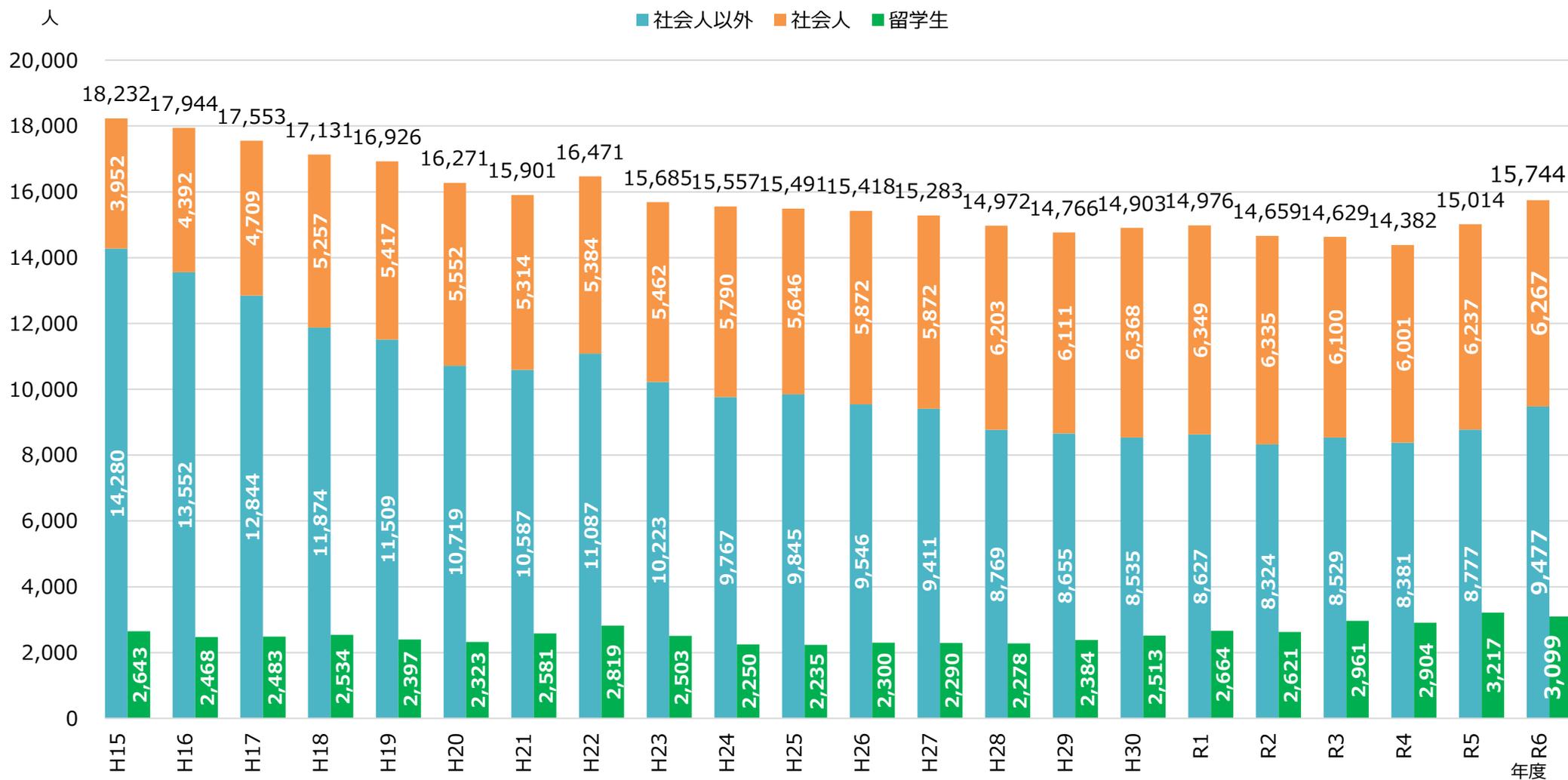
文部科学省と経済産業省が連携し、委員や産業界・大学等の協力も得ながら  
**博士人材の民間企業での活躍促進にむけた普及活動**を展開

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/jinzai/1357901\\_00015.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/jinzai/1357901_00015.htm)



# 博士課程入学者の推移

- 博士課程入学者のうち、**社会人以外の入学者数は平成15年度をピークに大幅に減少。**
- 社会人の割合は、平成15年度の2割から令和6年度には4割に増加。**
- 令和6年度の入学者数は15,744人となり、2年連続で増加。

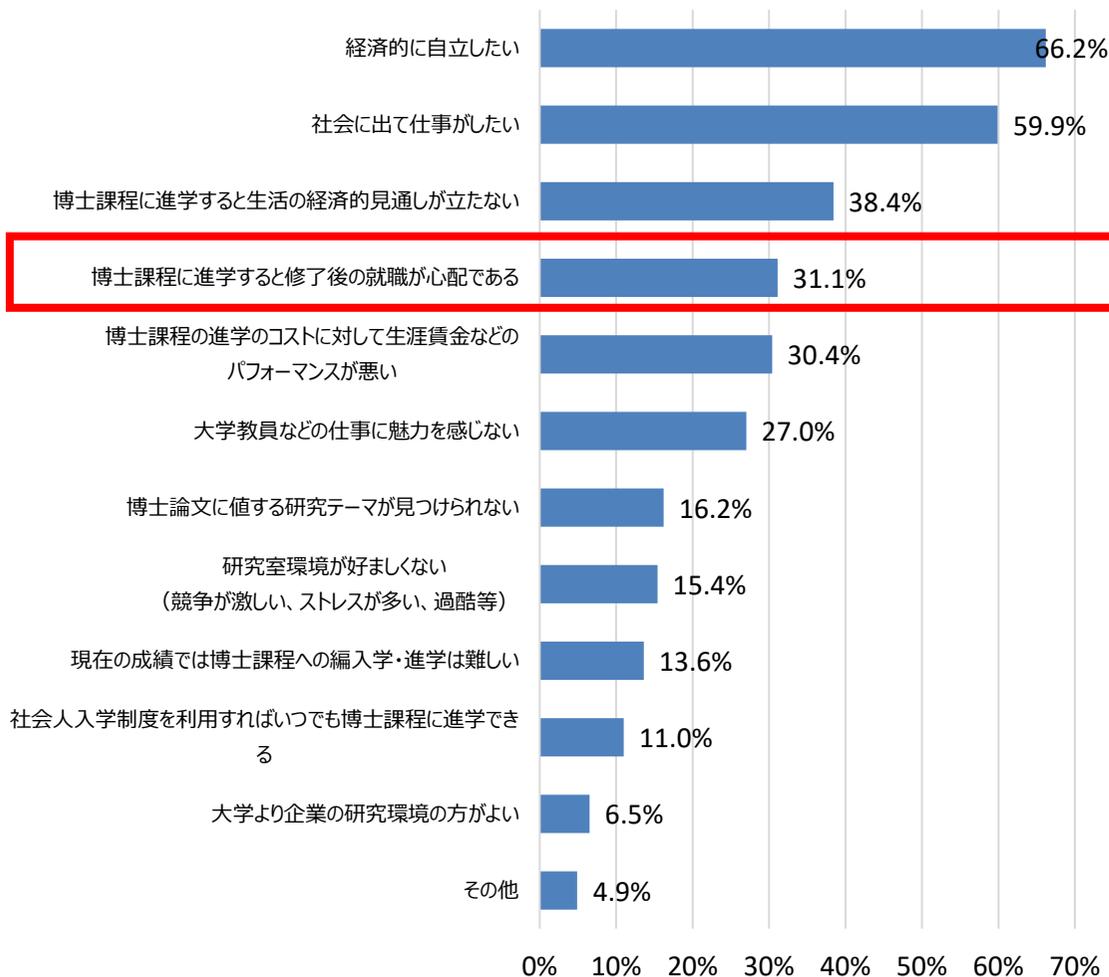


出典：学校基本調査

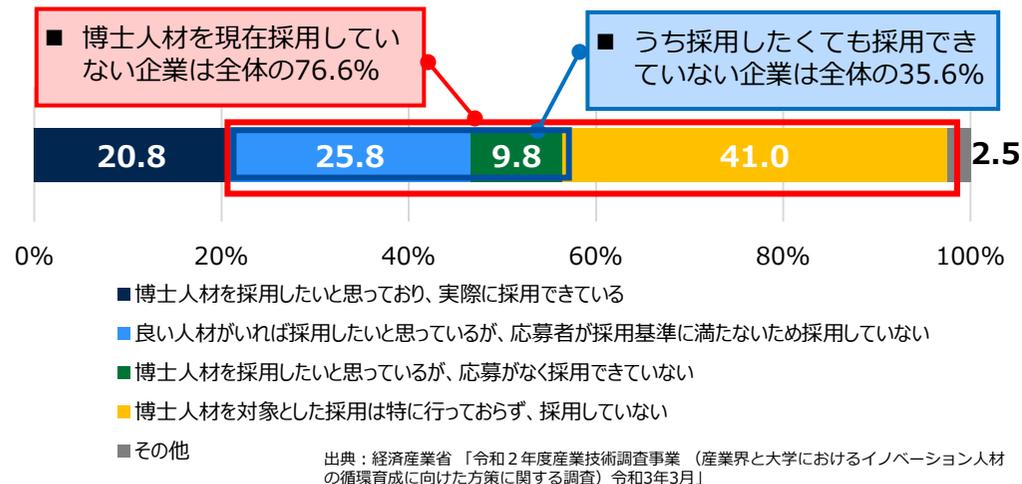
# 博士課程進学ではなく就職を選んだ理由と企業の博士人材採用状況

- 修士課程修了後に就職を選んだ理由として**博士課程修了後の就職が心配**との回答が**31.1%**。
- 一方で、**博士人材を採用したくても採用できていない企業**が全体の**35.6%**でその理由の約半数は「**マッチングがうまくいかなかったため**」であり、企業、大学ともに博士のミスマッチ解消のための取組が重要。

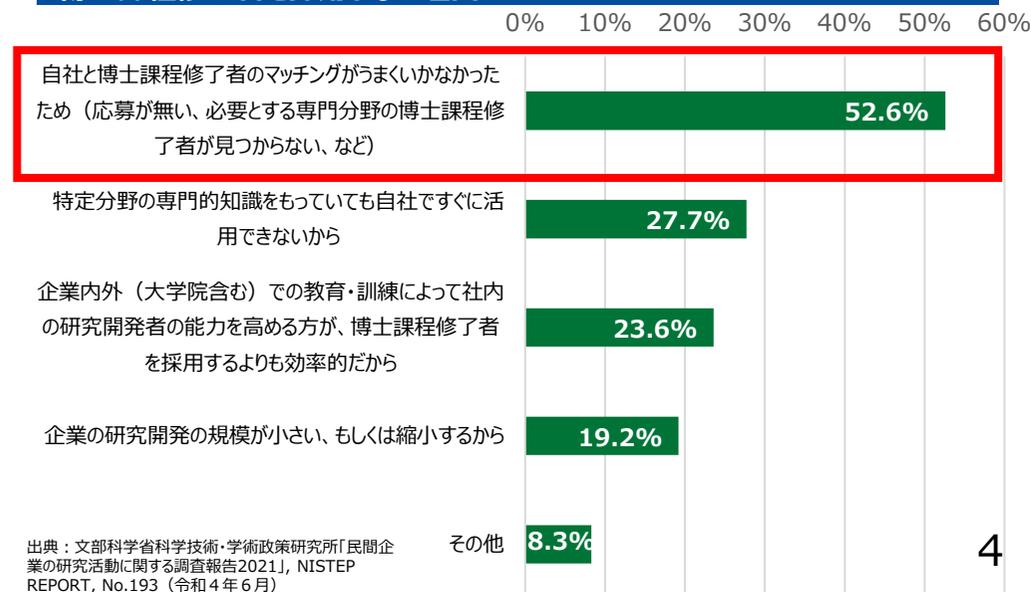
## 博士課程進学ではなく就職を選んだ理由



## 企業における博士人材の採用状況 (2020年)



## 博士課程修了者を採用しない理由



- 社会人博士は増加傾向にあり、博士号取得者数の増加のためにも社会人博士が働きながら博士号の取得を目指しやすい環境を整えることが重要。

## ＜社会人博士を推進する意義＞

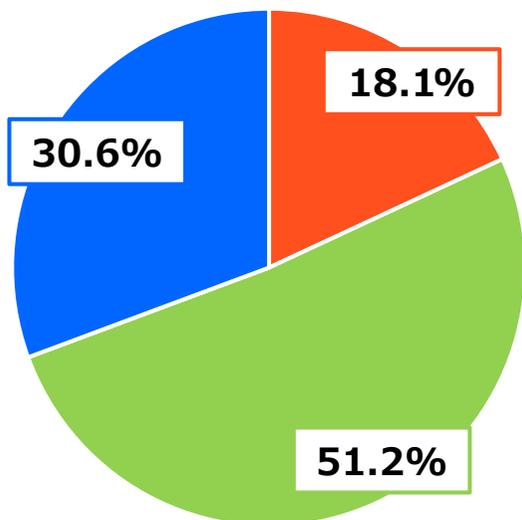
- 社会人の職務上の経験や知見を学問的に可視化すること
- それらを体系化・構造化して学問的な新しい知見に結び付けること



これらを浸透、より一層社会人博士の受入れを促進するためには先行事例の調査と、各大学との共有が必要

## 【制度の導入状況と個別大学の取組事例】

○各研究科における早期修了制度の導入状況（令和4年度時点）



✓ 制度自体は約70%の大学が導入しているが、実際に修了者がいるところはその1/3以下

- 制度を導入しているが、これまでに修了の実績がある
- 制度を導入しているが、修了者はいない
- 制度を導入していない  
(回答数(専攻数) : n=5,762)

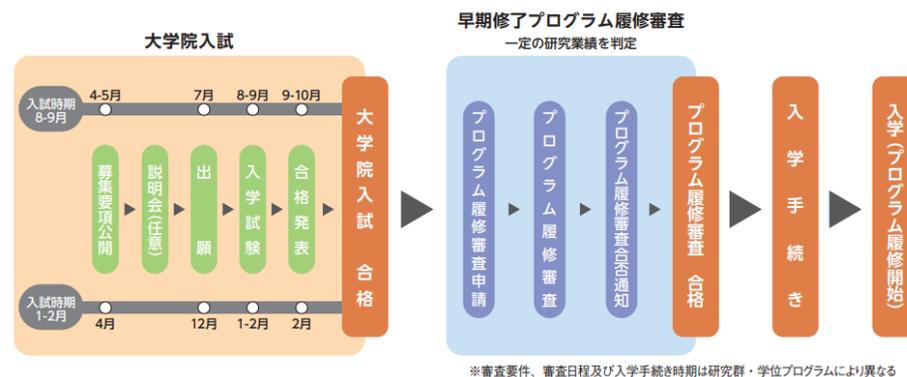
※「大学院における教育改革の実態把握・分析等に関する調査研究」(令和5年度)より文科省作成

○筑波大学 社会人のための博士後期課程 早期修了プログラム

### 入学までの流れ

大学院入試合格後、早期修了プログラム履修審査を受けることとなります。

【4月入学の例】



### 令和6年度早期修了プログラム履修者数・修了者数

研究群等	ビジネス	数理物質	システム情報	生命地球	人間総合	計
履修者数	2	5 (1)	17 (6)	11	0	35 (7)
修了者数	1	5	11	10	1	28

※( )は10月入学者数を内数で示す

※筑波大学HPをもとに文科省作成